

農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

地域の団結力が育てた奇跡のそばの里

はるきしゅうらく

受賞者 **春来集落**

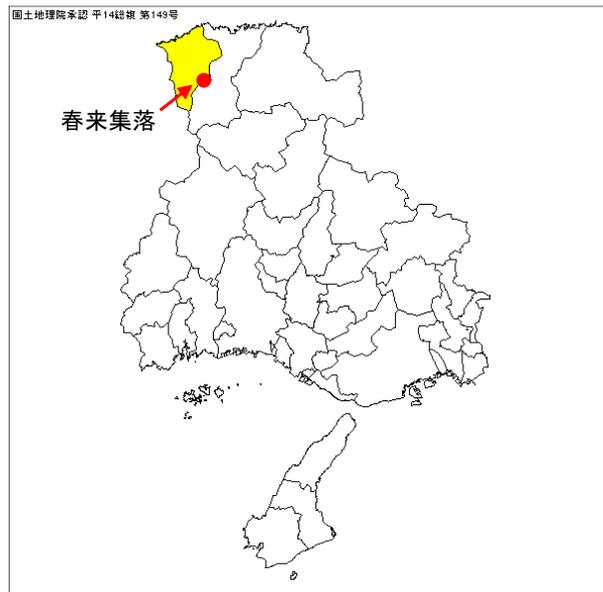
ひょうごけん みかたぐん しんおんせんちょう
(兵庫県美方郡新温泉町)

■ 地域の沿革と概要

春来集落は、兵庫県の北西部、美方郡新温泉町の山間集落であり、香美町との町境となる春来峠の標高400mの山間部に立地している。集落は尾根部に位置し、全域が山陰海岸ジオパーク、但馬山岳県立自然公園内にある。

集落は豪雪で有名な地帯であり、最深積雪は平均で1～2mに及び、根雪期間は12月から3月までの4か月間である。昔は交通の難所で「春来三里は会う人もなし」と言われていたが、今は国道9号線の整備等により利便性は高まっている。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

春来集落は、元々は椿村と言われていたが、「椿」の字を構成する「木」と「春」から「春木」と呼ばれるようになり、その後、春を待ち焦がれる人たちの切ない思いから「春来」となったと言われている。

明治8年に開校した春来小学校は、周辺の集落から離れているため1集落1小学校区で、集落のシンボルとなっていたが、平成22年3月31日に廃校となった。

第1表 地区の概要

事 項	内 容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農 家 率 (内訳)	68.3%
	総世帯数 60戸
	総農家数 41戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家 5戸
	1種兼業農家 3戸
	2種兼業農家 12戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積
	耕地面積 22ha
	田 21ha
	畑 1ha
	耕地率
	農家一戸当たり耕地面積
	0.5ha

平成27年3月10日現在、集落の総戸数は60戸で人口144人、75才以上の後期高齢者率は32%となっている。水稻中心の農業を営む零細農家が多く、多くの後継者は集落を離れているほか、明治8年に開校した春来小学校が平成22年3月に廃校になるなど、少子化と過疎化が進んでいる。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

昭和50年に、国道9号線の交通の難所を解決するため、集落の下に「春来トンネル」が開通したことで通過者にとっては交通の利便性はよくなったが、旧国道沿いの春来集落は取り残される形となった。農林業だけでは生活できない時代背景も重なり、多くの住民は学業や就職先として集落を離れて都会に出ていく傾向にあった。そのため、集落の戸数及び人口は昭和40年に91戸・454人、昭和50年に80戸・336人、昭和56年に73戸・294人と減少の一途をたどっていた。



写真1 春来トンネル

山間地に立地する春来集落では、過疎化に対する危機感から、住民になんとかしなければという思いが芽生えていた。当時の集落住民の思いは、「豪雪地帯で冬は長く交通の便も悪いため病院や高校に行くにも遠い」「車社会が到来していたが車が家に乗り入れできない」「田畑に行くのにも車両が横付けできず徒歩に頼らざるを得ない」「農林業だけでは生活できない」などであった。

このような状況の中で、住みよい集落を目指して、昭和57年に村づくり部会を発足させ、「各戸の車が乗り入れできる集落内の道路の改修」「車で田んぼまで行ける農道の整備」「集落の拠点となる公民館の改修」「椿山公園の整備」など、時代の要求にあったむらづくりを進めてきた。発足から現在に至るまで、集落の村づくり部会では次々に想定される集落の課題に対して話し合いを続け、むらづくりを実践している。



写真2 豪雪地帯の春来集落

(2) むらづくりの推進体制

ア 組織体制

昭和57年に、春來集落における行政の一部を担う「村づくり部会」を設置してむらづくりに取り組み始め、目的に応じて部会の体制に変更を加えながら現在に至っている。

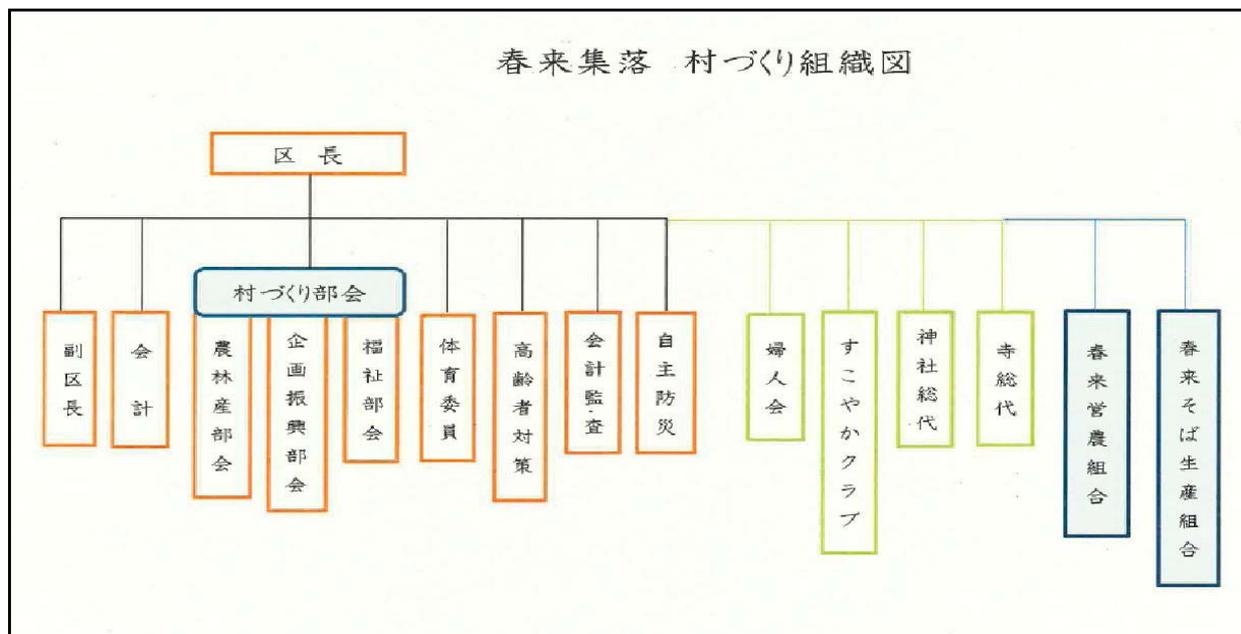
春來集落では、年1回開催される集落総会でむらづくりに関する住民全体の意見を集約し、区長の諮問により活動する「村づくり部会」において、区長が指名する構成員が中心となって、集落内の新たな課題や今後のあり方について話し合いながら活動を進めている。

イ 連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

「村づくり部会」（農林産部会・企画振興部会・福祉部会の3部会）は、集落内の課題や今後の方針などの検討を進めている。村づくり部会の構成員は、「椿山公園まつり実行委員会」「春來そば生産組合」「春來営農組合」「中山間地域直接支払集落協定」等他の組織の役員を兼務していることが多く、常に連携を取りながら事業を進めている。

昭和59年から61年まで、県単事業の地域農業組織化総合指導事業によって、兵庫県新温泉農業改良普及センター（旧浜坂農業改良普及所）、新温泉町役場（旧温泉町）、JAたじま（旧温泉町農協）など関係機関の指導助言を受けており、現在も適宜指導を受けている。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

豪雪地帯の峠に位置する春來集落は、住民全体が将来へ向けた危機感を持っていること、長期間にわたって1集落が1小学校区であったことなどにより、地域住民の団結力が非常に強く、むらづくりに積極的に取り組んでいる。特に、冬期間の高齢者世帯の見回り活動を新聞配達員の協力も得ながら行い、住民の安全確保のために貢献している。



写真3 閉校した旧春來小学校

また、春來集落では棚田や未整備田が多くて農業の生産条件が悪い中、そばの特産化や営農組合の設立により、集落の財産である農地において永続的に耕作する仕組みを整えている。

さらに、「椿山公園まつり」をきっかけとしたそばの特産化は、6次産業化の先駆けとなった。「そば処春來てっぺん」を中心に、生産、加工及び販売を一貫して行うことで、今では年間2万人の入り込み客がある。そばの6次産業化は、新しい産業として地域に定着し、雇用の場を創出するとともに、対外的に春來集落をアピールすることにつながっている。

春來集落の村づくり部会が発端となった活動によって、地域に活力が生まれ、今後へ向けて集落が存続する体制が整っている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 農林漁業生産、流通面の取組状況

春來集落では、集落内の農家や営農組合が生産したそばの実や餅米を「そば処春來てっぺん」においてそばやかき餅に加工し、直販や宅配により顧客へ販売するなど、いち早く6次産業化に取り組んでいる。



写真4 そば処 春來「てっぺん」

(2) 生産力の向上、生産の組織化、生産・流通基盤の整備等への寄与状況

そばについて、「そば処春來てっぺん」営業開始当初の作付面積は1.3 haであったが、現在では6.1haと面積を拡大し、約2 tを生産している。当初の収穫及び乾燥調製は手作業が中心であったが、汎用コンバインの導入等によって収穫や乾燥調製の省力化が図られている。生産されたそばは、品質が落ちないように冷蔵庫で保管され、「そば処春來てっぺん」において提供される手打ちそばの原料として利用されている。これら一連の作業

は、農林産部会長を中心に「春来そば生産組合」と「春来営農組合」が連携し、計画に行っている。

また、集落内の良質米をほ場ごとに乾燥調製を行い、「そば処春来てっぺん」等を通して販売するほか、冬場にする「かき餅」の原料として、2.1tの餅米を生産している。



写真5 冬期間のかき餅作り

さらに、集落内の農地へ乗用機械や軽トラックが出入りできるように農道の整備を進めたことで、農作業の省力化に寄与するほか、営農組合の発足により機械の共同化が図られ、生産コストの低減に結び付いている。

(3) 後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況等

「そば処春来てっぺん」では、集落内の女性が雇用され、農産物の加工などに能力を発揮している。

また、集落の農地を守る営農組合では、作業オペレーターを育成するため、10名の若手を確保している。今後は、後継者確保に向けて、集落外からの担い手の受入れや集落内の組織の統合を検討している。



写真6 そばの収穫

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 生活・環境整備面の取組状況

春来集落では、個々の住宅に車が出入りできるように地区内の道路を改修している。

また、集落のシンボルである春来小学校を地区公民館として整備し、公民館活動として集落歴史講座、料理教室、文芸教室、体育教室の4つの講座を設け、伝統料理の試食会、しめ縄づくり等を行っており、地域住民の交流の場を創出している。

(2) 生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

「椿山公園」及び「そば処春来てっぺん」は、地域の交流拠点となっている。毎年5月に椿山公園において開催する「椿山公園まつり」は20回を数え、毎回約600人が訪れる春のイベントとして地域に定着している。

「そば処春来てっぺん」はリピーターも多く、京阪神など地域外へもロコ

ミで定着しつつあり、年間約2万人の入り込み客がある。

また、豪雪に見舞われる冬期に、高齢者対策として見回り隊を結成し、新聞配達員の協力も得て9名が毎日声かけをするようになったことで、閉じこもりがちな高齢者の安否確認を行っている。